

上越交響楽団

第79回定期演奏会

The 79th
Regular
Concert



2017 **9/17** sun.
14時開演

上越文化会館大ホール



指揮

長谷川正規

コンサートマスター

三浦 健

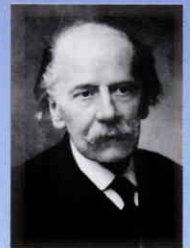


オッフエンバック

喜歌劇「美しきエレーヌ」序曲

マスネ

組曲第4番「絵のような風景」



サン・サーンス

交響曲第3番「オルガン付き」

主催／上越交響楽団

後援／上越市教育委員会、妙高市教育委員会

本日は上越交響楽団の演奏会にお越し下さりましてありがとうございます。今年は当楽団が設立されてから45年目になりますので、新潟県文化振興財団からの助成をいただきましての演奏会になります。

本日の演奏曲目でオッフエンバックの曲は、喜歌劇の序曲らしい楽しい曲です。マスネの曲は、文字通り絵を見ているような大変美しい曲が4曲。掘り出し物のような曲です。

サン・サーンスという人は不思議な魅力を持つ作曲家です。小編成の「動物の謝肉祭」の中で他の作曲者をギャグにしたり、「白鳥」の様な大変美しい曲で魅了したりするかと思えば、今回の交響曲はパイプオルガン（今回は電子オルガンを使います）をフルに使った大編成のオーケストラにして静かな楽章や大音量の堂々たる楽章で、演奏者も聞く人も大感動の渦に引き込まれてしまいます。

どうぞサン・サーンスの魅力に浸って、余韻を楽しみながらお帰り下さい。

指揮者

Masanori Hasegawa

長谷川正規

東京藝術大学音楽学部器楽科（チューバ専攻）を卒業。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。学部在学中に安宅賞を受賞。ソリストとして、松尾葉子指揮藝大フィルハーモニア、故岩城宏之指揮オーケストラアンサンブル・金沢等と共演。チューバ奏者として管弦楽・吹奏楽・室内楽の領域で活動するほか、指揮の活動も盛んに行っており、上越交響楽団、上越市民吹奏楽団、新潟市北区フィルハーモニー管弦楽団の定期公演をはじめ、ミュージカル「春のホタル」、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」「愛の妙薬」「売られた花嫁」等で指揮者を務める。これまでにチューバを稲川榮一氏に師事。現在、上越教育大学大学院学校教育研究科准教授。



コンサートマスター

Ken-ichi Samizo

三溝健一

松本市出身。4歳よりヴァイオリンを始め、片岡世界、正岡紘子、山岡耕筈、天満敦子の各氏にヴァイオリンを、東京音楽大学にて井上將興氏にヴァイオリン及び室内楽を師事。肥沼きよ、竹内邦光、丸山嘉夫、松本紀久雄、汐澤安彦の各氏にピアノ・ソルフェージュ・音楽学・指揮法を師事。大学在学中よりソロ・室内楽・オーケストラ・オペラ等、幅広く演奏活動を行う。殊に「ENSEMBLE“藝弦”（弦楽合奏）」「室内楽“EAU”（ピアノアンサンブル）」を中心に研鑽を積み現在は「音泉室内合奏団」を主軸に活動を展開、編曲も多数手掛けている。また、関東信越各地の市民・学生オーケストラと室内楽にて演奏指導と活動の発展に尽力、また初心者から専門課程の学生及び演奏家の個人レッスンなど広く後進の育成にもあたる。足立シティオーケストラ・松本交響楽団・上越交響楽団・柏崎フィルハーモニー管弦楽団、他／常任・客演コンサートマスター、副指揮者（足立・松本）。音泉室内合奏団／ソロ・コンサートマスター、音楽監督。池袋音楽学院 講師。Gruppo Violini 主任講師。Musica Rospo 主幹。



プログラム&曲目解説

■オッフェンバック／喜歌劇「美しきエレーヌ」序曲

「天国と地獄」など数々の名曲を生み出したオッフェンバックが円熟期にあった 1864 年に作曲されました。喜歌劇はギリシャ神話上のトロイア戦争を題材としたもので、絶世の美女スパルタ王妃エレーヌが誘惑される話を喜歌劇に仕立てたものです。神話を元にしてはいるものの、当時社会問題化していた上流階級の放蕩ぶりを風刺する作品になっています。序曲はマーチテンポの

曲調で始まり、次いで甘美で印象的なワルツが流れてパリの雑踏が聴こえるようなロマンティックな雰囲気があふれます。そして洒落た曲調のギャロップが現れ、終結部は低音楽器群が重厚に歌い上げることで、劇の幕開きに相応しい音楽になっています。

■マスネ／組曲第4番「絵のような風景」

「タイスの瞑想曲」があまりに有名な作曲家ですが、パリ音楽院の教授を長くつとめて 200 以上の歌曲やオペラや管弦楽曲など多くの曲を残した作曲家でした。マスネは演奏会用の管弦楽組曲を 7 曲作曲しており、「絵のような風景」の副題が付されている組曲はその 4 番目の曲にあたります。4 曲の描写音楽で構成されており、そ

れぞれマスネが思い描いた土地のイベントや歌や踊りを織り込んだ色彩豊かな音楽です。

- | | |
|-----------|---------------|
| 第 1 曲 行進曲 | 第 3 曲 お告げの鐘 |
| 第 2 曲 舞踏曲 | 第 4 曲 ジブシーの祭り |

● 休憩 ●

■サン・サーンス／交響曲第3番「オルガン付き」

サン・サーンスは番号の付いた交響曲を 3 曲、番号なしを 2 曲作曲した他に未完の交響曲も残しています。現在この中で最も演奏される機会が多いのは第 3 番ですが、作曲当時の 1850 年代に交響曲を書き続けた稀有な存在であり、その仕事が以降のフランス音楽全体の黄金時代につながったと言われています。交響曲第 3 番はロンドン・フィルハーモニー協会の委嘱で 1886 年に作曲されて、同年のロンドン初演も翌年のパリ初演も大成功でした。「オルガン付き」という副題がついていることから分かるように、通常の楽器編成にオルガンが加えられているのが特徴の一つで、精妙な作曲技法によって華麗で繊細な音の世界が広がります。

この作品には「リストの思い出に」という献辞が添えられています。リストはサン・サーンスの才能を早くから認め、1877 年にサン・サーンスの代表作「サムソンとデリラ」の世界初演を支援しました。一方、サン・サーンスは長年にわたりリスト作品の紹介に尽力しています。リストは交響曲第 3 番を献呈したいというサン・サーンスの申し出を喜んで受け入れましたが、その 6 週間後に世を去ったため出版譜を手にすることはできませんでした。リストの訃報に接したサン・サーンスは「リストの思い出に」という献呈の辞に差しかえて出版しました。

曲は 2 楽章構成ですが、内容的にはそれぞれの楽章が一般的な交響曲の 2 つの楽章をまとめた形をとっており合計 4 部により交響曲の体を成しています。全曲を通じて循環主題が随所に用いられて作品の構成力を高めています。

第 1 楽章（前半）アダージョ ～ アレグロ・モデラート （後半）ポコ・アダージョ

一般的な交響曲のアレグロ楽章と緩徐楽章に相当します。前半は緩やかな導入部の後、弦楽の小刻みに揺れ動く循環主題（第 1 主題）が現れ、穏やかな性格の第 2 主題が続きます。循環主題の冒頭はグレゴリオ聖歌「怒りの日」が引用されています。

後半では、オルガンに導かれた弦楽によって甘美な主題が提示されて、クラリネットとホルンとトロンボーンが引き継ぎます。弦楽によって主題が変奏された後、中間部では低弦のピッツィカートに循環主題が回帰し、大胆な転調を経て主部が再現されてから消え入るように終わります。

第 2 楽章（前半）アレグロ・モデラート ～ プレスト （後半）マエストーソ～アレグロ

スケルツォ楽章とフィナーレに相当します。弦楽による力強い旋律で開始され、変形された循環主題が続きます。トリオ部分では木管楽器とピアノが快活に動き回ります。第 2 楽章後半で使われる主題とトリオの楽想が交錯するコーダ部分が次第に弱まり、循環主題を回想しながら後半に続きます。

オルガンの壮麗な響きによって第 2 楽章の後半が開始され、4 手ピアノの響きとともに長調に変奏された循環主題が奏されます。力強いファンファーレ、フーガや田園風の第 2 主題など、変化に富んだ展開を経て壮大な終結部によって頂点を迎え、華々しく全曲を閉じます。

■ 出演者

*は賛助出演ならびに団友

■コンサートマスター

三溝 健一

■第1ヴァイオリン

飯吉 麻衣子
加藤 由香里
斎藤 典子
洲崎 匡
横田 幸恵
折原 裕子*

上野 圭子
小菅 宏造
佐藤 理果
橋本 士郎
岩田 貴守*
増井 健一*

■第2ヴァイオリン

青木 由美子
泉 紀子
坂口 和代
石津 忠*
平原 良晃*

安藤 優
小林 優樹
田中 教生
田中 陽子*
八國生 紗也乃*

■ヴィオラ

岩下 律子
清水 哉子
古海 法雲
大庫 るい*
横田 裕祐*

澤村 昂志
中村 逸郎
渡辺 みほ
宮入 徹*

■チェロ

池田 なつき
上野 敦子
金山 美樹
中務 浩
水澤 由紀

稲井 進
金森 史子
佐藤 充
柁木 文子
村治 美代

■コントラバス

秋山 雅央
木口 聡*
山崎 康正*

吉崎 須賀子
宮本 貴幸*

■フルート

齊藤 孝久
丸山 恵理

福田 幸久

■オーボエ

羽賀 純子
皆川 正弘

橋本 直子
皆川 未央

■クラリネット

齊藤 直美
富田 洋加

鈴木 和久
渡辺 英雄

■ファゴット

鈴木 絢子
高須 理栄*

福島 梓

■ホルン

飯田 美由紀
笹川 修一
綿貫 英紀

伊豫岡 美沙
須田 孝義

■トランペット

上原 舞
水澤 学

杉山 さくら
中原 美千佳*

■トロンボーン

笠野 光雄
松田 彰英

西山 瑤

■テューバ

若井 一也*

■パーカッション

稲田 善智
阿部 真代*
藤澤 紀章*

小浜 史頌
小島 章子*
綿貫 佳子*

■オルガン・ピアノ

稲田 由佳

■ピアノ連弾

岩崎 東子*

渡部 純子*

団長 古海 法雲
事務局長 茨木 真
インスペクター 佐藤 慎悟

■ 楽団について

1972年(昭和47年)に結成されました。当時の日本の高度経済成長に呼応するように、アマチュア音楽家の活動が全国的に活性化する流れのなか、上越においても市民オーケストラ結成の機運が高まり、地域の高校管弦楽団OBら有志が集って演奏会を開催して以来、年2回開催している定期演奏会や各方面からの依頼演奏会を通して皆様に親しまれてまいりました。

現在は指揮者に長谷川正規氏、コンサートマスターに三溝健一氏を迎えて充実した活動を展開しています。

本団では一緒に活動していただける団員を募集しております。募集パート等の詳細についてはお問合せ下さい。素敵で愉快的仲間達と素晴らしい音楽を創りましょう。団員一同、心より歓迎いたします。

■お問合せ先

Mail: mako2034@joetsu.ne.jp
Tel: 090-1606-1254 (事務局長: 茨木)
http://www.5a.biglobe.ne.jp/~jsovn/



■ 次回演奏会のご案内

第80回定期演奏会

日時: 2018年3月18日(日)14:00 開演
会場: 上越文化会館 大ホール

ウェーバー / 歌劇「オイリアンテ」序曲
モーツァルト / 交響曲第31番「パリ」
チャイコフスキー / 交響曲第1番「冬の日の幻想」



0歳児から大人まで楽しめる
オーケストラコンサート よい